

園内の探索：パート2

芝生広場、ボランティアガーデン、湿生花園、アジサイ園

芝生広場

スイレンの池のすぐ後ろにあるこの芝生は琵琶湖に隣接しています。湖のこの部分は、もともと草津市立水生植物公園みずの森の創設のきっかけとなった 13 ヘクタールのハスの群生地がありました。2016 年、このハスの群生地は再生しなくなりました。湖越しに見える三上山の景色は素晴らしいままです；三上山は標高 432 メートルの山で、その円錐形が富士山を思わせることから「近江富士」というニックネームで呼ばれています。（近江は滋賀県の古い名称です。）

通路と湖の間には常緑樹の茂みがあります。これらには、モミ (*Abies firma*)、ダイオウマツ (*Pinus palustris*)、メタセコイア (*Metasequoia glyptostroboides*)、カヤ (*Torreya nucifera*) など、日本でよく見られる木々が含まれています。木々の向こうには、かつて淡水真珠が養殖されていた筏を見ることができます。

ボランティアガーデン

ボランティアガーデンは、その名の通り、植物や花に興味を持つ約 30 名のボランティアによって作られています。この庭園は、彼らが園芸の基礎を学び、技術を向上させる実践の場となっています。植えられる植物は共同での話し合いを通じて選ばれ、典型的なイギリス式庭園を思わせます。

湿生花園

湿生花園の目玉はハナショウブです。江戸時代（1603 -1868）には、武士階級の人々が競ってアヤメを栽培していました。その結果、日本各地の江戸時代の藩によって異なる品種が生まれました。ここでは、伊勢（現在の三重県と和歌山県）、江戸（現在の東京）、肥後（現在の熊本県）のハナショウブを見ることができます。また、ハナショウブの花壇周辺にあるラクウショウ（*Taxodium distichium*）の気根にも注目してください。これらの根は過度の湿気を避けるために土から突き出し、地上で「呼吸」しています。

日本の芸術や工芸で長く重要な役割を果たしてきた興味深い花の一つに、アオバナ（*Commelina communis* var. *hortensis*）があります。文字通り「青い花」として知られるこの植物は、草津周辺でのみ栽培されるデイリリー的一种です。アオバナから抽出された青色染料は、友禅や絞り染めの下塗りに使用されます。また、アオバナは、19 世紀初頭にドイツから合成プルシアンブルー染料が輸入されて廃れるまで、浮世絵版画の主要な青色顔料

の源でもありました。

湿生花園で探してみるべき他の植物には、紫色の中国原産のシラン (*Bletilla striata* var. *striata*) や、秋に微妙な銀色の色調に変わる 7 種のススキがあります。日本庭園の池の近くでよく見られ、デイジーに似た黄色い花を咲かせる地を這うツワブキ (*fargugium japomicum*) は、日本の典型的な秋の花の一つです。

アジサイ園

日本で最も人気のある花木の一つであるアジサイは、全国の寺院の庭園や公共の公園、個人の庭に見られます。6 月の梅雨の時期に花を咲かせるアジサイは、湿った日陰の環境を好むため、ここではメタセコイアの木々に守られた丘の斜面に植えられています。